

# 郡上東氏800年

ぐじょうとうし

# 古今伝授50年祭

こきんでんじゅ



▲東常縁をモデルとした能「くるす桜」の一場面。  
写真は、常縁役の味方玄氏（観世流能楽師シテ方）

「常縁授けた古今伝授」「和歌で還った篠脇城」「火種絶やさず700年」郡上かるたのこれらの読み札は、実は、中世の領主・東氏に關係するものです。今年、2021年は、東氏が当地を与えられるきっかけとなった「承久の乱」から800年。郡上東氏9代目・東常縁が、連歌師・宗祇に初度の「古今伝授」をしてから550年の二つの節目が重なります。この記念の年に「郡上東氏800年・古今伝授550年祭」がスタートします。

## 郡上東氏の歴史と文化遺産

### ■郡上東氏とは

鎌倉時代から室町時代の終わりにかけて、郡上郡山田庄（現・大和町他）を中心に一帯を治めた領主が「郡上東氏」です。

東氏は、もとは下総国（現・千葉県北部他）に勢力を持った武士団・千葉氏の一族でした。

次期NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で注目を集めている鎌倉時代初めの承久3年（1221年）に起きた「承久の乱」の戦功で、この地を与えられたとされます。その後、永禄2年（1559年）、一族であった遠藤盛数に攻められ、郡上東氏は歴史の表舞台から姿を消します。

この間は、約340年であり、江戸時代よりも長い期間、この地を治めたこととなります。郡上東氏が、郡上に大きな影響を与えていたことが考えられます。

### ■東氏のはじまり

東氏の初代胤頼は、鎌倉幕府の初代將軍源頼朝から父のように慕われた千葉常胤の六男でした。鳥羽天皇の皇女に仕え、源平合戦では頼朝側として活躍しました。その後、下総国香取郡東庄（東荘）を相続し、「東」と名乗るようになります。

### ■和歌の家として

東氏2代重胤は、鎌倉幕府3代將軍で優れた歌人でもあった源実朝に仕えました。その縁で藤原定家の流れを汲む流派の和歌をたしなむようになったと考えられています。

東氏3代胤行は、鎌倉幕府6代將軍尊親王（後嵯峨天皇の皇子）の和歌の師でした。

それ以降も、代々優れた歌人が出ます。「勅撰和歌集」は、天皇らが編さんを命じたもので、和歌が一首でも載ることは歌人として大変な名誉とされてきました。ここに東氏一族だけで72首もの和歌が載っています。

### ■武士の家として

「承久の乱」で大きな手柄を立て、郡上郡山田庄を加領された東氏3代胤行は、東庄を長男泰行に継がせ、三男行氏とともに郡上へ来ました。以降、東氏は、泰行の流れを汲む「下総東氏」と、胤行を初代とする行氏の「郡上東氏」に分かれます。

郡上東氏は、南北朝の争乱の時代には、高鷲を中心に勢力を持った鷲見氏とともに各地を転戦しました。

郡上東氏9代常縁は、武官として室町幕府8代將軍足利義政に仕えました。おりしも関東では「享徳の乱」が起きます。東氏の宗家である千葉氏も、一族の中で敵と味方に分かれ争っていました。これを鎮めるため、將軍の命を受けた常縁は、関東へ出陣しますが、戦況は一進一退を繰り返し、いっこうに決着しません。



## 郡上東氏のあれこれ

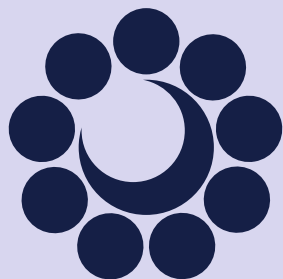
### 1. 「東」という名字の由来は？

父から東庄を相続した初代胤頼は、東大社の神官から姓を譲り受け、「東」氏と名乗るようになりました。ちなみに、千葉氏は、平清盛らと同じ桓武平氏なので、東氏も遠藤氏も、「平」を用いることがあります。写真／東大社（東庄町提供）



### 2. 東氏の家紋は？

諸説ありますが、家紋を記した当時の絵図がないので、推測の域を出ません。このため、今回の「郡上東氏800年・古今伝授550年祭」では、東氏が勧請した明建神社に残る紋をシンボルマークに用いました。



### 3. 東氏の居城は？

最初は、阿干葉城（現・大和町剣）を拠点としましたが郡上東氏4代目・氏村の時に篠脇城（大和町牧）に移り、230年余り居城としました。戦国時代半ばの天文10年（1541年）、東常慶が赤谷山城（八幡町安久田）に移しました。

### 4. 東氏と妙見信仰

全国に散らばる一族の結集のために、千葉氏が用いたのが、北極星や北斗七星をつかさどる妙見菩薩を崇める「妙見信仰」だと考えられています。このため、明建神社の例大祭「七日祭」も、毎年8月7日（旧暦では7月7日）の星祭りの日に執り行われます。

### ■和歌で篠脇城を取り戻す

常縁が関東に出陣して13年目の応仁元年（1467年）、「応仁の乱」が起きます。この余波で、翌年には、東氏の居城・篠脇城が、美濃国守護代斎藤妙椿に急襲され、落城します。

関東の地で落城の知らせを聞いた常縁は悲しみ、和歌を詠みます。その和歌に心を動かされた妙椿からの求めに応じ、常縁がさらに和歌を贈ると、妙椿は返歌とともに城を返したと伝えられています。

戦乱の世にあって、一滴の血も流さずに城を取り戻したことを、人々は「和歌の功德」と称えたといえます。

実際には事前交渉が成立して

いて、和歌のやり取りは形式的なものだったという見方もありますが、それにしても当時の和歌の価値が表れているエピソードです。

### ■東常縁と古今伝授

常縁は、「古今伝授の祖」と呼ばれることもあります。

「古今伝授」とは、いわば和歌の教科書である『古今和歌集』の解釈等を、師が認めた弟子にだけ伝えることです。

常縁も、父や兄と同じように、当時を代表する歌人に和歌の手ほどきを受けていました。やがて才能や人柄が認められた常縁は、師から「古今伝授」を受けました。

常縁自身も、何人かの弟子に

「古今伝授」を行いますが、中でも連歌師・宗祇への古今伝授は有名です。文明3年（1471年）、伊豆の三島で最初の伝授を行い、その後、何回にも分けて教えました。最後に、郡上東氏の氏神である妙見社（現・明建神社）に誓い、古今伝授は完了したと考えられています。

### ■その後の郡上東氏と遠藤氏

常縁の後の郡上東氏は、徐々に求心力を失っていききました。

天文9年（1540年）、越前の朝倉氏が侵攻してきたことから、翌年、居城を赤谷山城へ移します。

永禄2年（1559年）、東常亮が一族の遠藤胤縁を討ったことから、常亮は、遠藤胤縁の

弟・盛数に攻められます。そして、この戦いに勝利した遠藤氏が郡上の支配者になります。

郡上藩3代藩主遠藤常友は、東氏の文化を顕彰し、白雲水（宗祇水）を整備したり、常縁の和歌を集めたりしました。三上藩（現・滋賀県）に移った後の遠藤家の当主も「古今伝授」を受けました。このように、東氏の文化は遠藤氏にも引き継がれていきました。

### ■市内の東氏の文化遺産

さて、美並町には、郡上東氏初代（東氏3代）胤行が開いた戸谷庵（現・乗性寺）や、東常慶を開基とする北辰寺があります。また、和良の覚証寺には、胤行の墓があります。

明宝の「千葉家のいろり火」は、東氏と共に下総国からやって来た千葉氏が、代々守り継いだとされる分火です。現在は道の駅明宝などで守られています。

また、常縁の父で郡上東氏7代目益之は、赤谷山城を築きました。益之（または益之の子）は、「和良殿」とも呼ばれたそうです。

東氏というと大和町のイメージが強いかもしれませんが、実際にはひろく郡上一円に関わっています。





## 郡上東氏800年・古今伝授550年事業のご紹介

東氏が郡上郡山田庄を加領され800年、郡上東氏9代常縁が連歌師・宗祇に初度の古今伝授をして550年の二つの節目が重なることから、今年度の4月から「郡上東氏800年・古今伝授550年祭」をスタートしました。

今年から数年間かけて、歴史、芸能、短歌のそれぞれの視点から、東氏の歴史や文化遺産を明らかにするとともに、これを生かした地域振興を図ります。

初年度の今年は、史跡ウォーキング（5月23日終了）、連続講座「東氏と古今伝授会」（満席により受付終了、内容は郡上CATVで随時放送）などとともに、次のような事業をスタートしました。

### 【今後の催し物のご案内】

メイン事業に位置付けている「記念式典・記念講演」をはじめ、篠脇城発掘調査中間報告会など、様々な催しを計画しています。ぜひご参加ください。なお、新型コロナウイルス感染症予防対策として定員を設け、事前申込制としているものが多いので、ご留意ください。申込にあたっては、次のことをご了知

ください。

入館時の手指消毒・検温の実施／館内でのマスク着用・換風の徹底／マスク着用時でも無用な会話は極力控える／当日体調が悪い場合は参加を控える／2週間以内に咳や発熱などの症状があった場合も念のため参加を控える／遡って2週間は感染リスクが高い行動を控えたうえで参加する

また、今後の状況によっては、やむなく開催形態の変更や中止する場合があります。申込者には直接お知らせします。

※「郡上東氏800年・古今伝授550年祭」の事業の一部は、令和3年度岐阜県・清流の国ぎふ推進補助金を活用しています。

## 800年・550年祭認定商品

地域経済振興につなげることを目的に、「郡上東氏800年・古今伝授550年祭実行委員会」（委員長・木嶋勘逸郡上市商工会長）では、「郡上東氏800年・古今伝授550年祭認定商品」制度を始めました。基準を満たした商品には認定シ



▲月星紋の郡上本染コースター（渡邊染物店）【右】、東常縁和歌等がパッケージにあしらわれたドリップコーヒー（スローコーヒー）【左】



▲「くぼし」製造・文吉（三浦愛子さん）

ールを貼り付け、市内の道の駅や古今伝授の里フィールドミュージアムなどで販売しています。また、9月20日の記念式典・記念講演会の会場でも紹介販売する予定です。

※第1号認定商品「くぼし」

エゴマ入りの皮で白いんげんの漉し餡を包んだ焼き菓子です。明建神社の月星紋をパッケージにあしらっています。

「くぼし」は東氏の家紋にある九つの星から由来しています。

【市内の事業者のみなさんへ】新規・既存商品の別にかかわらず、基準を満たしていれば認定商品として申請できます。登録料は必要ありません。ぜひ申請してください。詳しくは大和振興事務所（☎88・2211）までお問い合わせください。

## 短歌作歌・朗詠教室

短歌（和歌）は、もともと大声に出して歌い上げられていました。このことから、自分で短歌を詠み、それを声に出して朗詠する教室を、市内の小中学校で開催しています。自分の気持ちを言葉と声で表現する力も養います。



## 創作オペレッタの準備事業

次世代を担う子どもたちに郡上東氏の歴史を知ってもらい、

郷土に誇りと愛着を持ってもらうことや、表現力を養うことなどを目的に、東常縁を主人公にした創作オペレッタの制作準備に取り掛かりました。令和5年度の上演を目指します。

今後、衣装づくり、小道具づくり、上演の運営など、市民のみなさんのお力をお借りし、創り上げていければと考えています。詳しくは改めてお知らせします。ご協力をお願いいたします。

## 記念式典・記念講演会「中世の武士と和歌」

戦いに明け暮れた武士たちにとつての和歌や古今伝授、文化とはどのようなものだったのでしょうか。和歌の本質に立ち戻りながらその価値を探るとともに、鎌倉期以来の文学的伝統を持つ郡上東氏の立ち位置を確認します。

**日** 9月20日（月・祝）13時～  
**場** 郡上市総合文化センター文化ホール

**内** 【講師】小和田哲男氏（歴史家）、佐佐木幸綱氏（歌人）、竹島一希氏（国文学者）

**費** 無料  
**定** 一般200名（要申込・先着順）

**申** 電話または電子メールで、



◆特別展  
木造妙見菩薩立像（千葉県指定有形文化財）、下飯田の獅子頭（明建神社の獅子頭と対という伝承）などを特別展示します。

## 特別展・特別講座「下総と郡上の800年の縁」

①名前（ふりがな）、②郵便番号、③住所、④連絡先電話番号（できれば携帯電話番号）をお伝えください。1度に2名まで申し込み可。2名で申し込みの場合は、2名分の①④をお伝えください。

【申込先】古今伝授の里フィールドミュージアム

メールの場合は「9月20日講演会申込」と件名に記入してください。

他 9月14日（火）から20日（月）まで郡上市総合文化センター1階展示室でパネル展示を行います。入場無料。予約不要。

**日** 9月1日（水）～27日（月）  
（期間中火曜休館）9時～17時

**場** 古今伝授の里フィールドミュージアム 東氏記念館

**費** 大人320円、小人110円

**申** 予約不要。ただし館内的人数を10人程度に制限していますので、状況によってはお待ちいただくことがあります。

◆特別講座  
東庄町郷土史研究会平野剛会長、高安豊副会長による、下総東氏と妙見信仰についての講座です。

**日** 9月11日（土）14時～

**場** 古今伝授の里フィールドミュージアム 短歌の里交流館 よぶこどり

**費** 無料

**申** 50名（要申込・先着順）  
電話または電子メールで、①名前（ふりがな）、②郵便番号、③住所、④連絡先電話番号（できれば携帯電話番号）をお伝えください。1度に何名でも申込可。複数名でお申し込みの場合は、全員分の①④をお伝えください。

【申込先】古今伝授の里フィールドミュージアム

メールの場合は「9月11日特別講座申込」と件名に記入してください。

## 第9回古今伝授の里・現代短歌フォーラム「郡上の風土が育んだ歌」

金子貞二、日置廣雄、土松新逸、横関信雄、水野隆ら、才能あふれる歌人や文人を輩出した、戦後の郡上の短歌文化の諸相を明らかにします。

**日** 10月9日（土）13時30分～

**場** 古今伝授の里フィールドミュージアム 短歌の里交流館 よぶこどり

**内** 【講師】小塩卓哉氏（歌人、中京大学客員教授）

**費** 無料

**申** 一般30名（要申込・先着順）  
電話または電子メールで、①名前（ふりがな）、②郵便番号、③住所、④連絡先電話番号（できれば携帯電話番号）をお伝えください。1度に何名でも申込可。複数名でお申し込みの場合は、全員分の①④をお伝えください。

【申込先】古今伝授の里フィールドミュージアム

## 第27回古今伝授の里短歌大会・曲水の宴

今年は、11月27日に「曲水の宴」、28日に「古今伝授の里短歌大会」を開催します。歌壇の第一人者の永田和宏氏や佐佐木

幸綱氏らが講師です。事前申込制で開催します。詳しくは10月初旬に古今伝授の里フィールドミュージアムのホームページなどでお知らせします。

## ただいま募集中！ 十二単のモデル

盃が流れつくまでに和歌を詠むという「曲水の宴」で、平安朝風の十二単じふにひとへを着用して参加していただける、18歳～25歳、身長150cm～170cmくらいの女性を1名募集しています。髪のはきはきありません。交通費や謝礼はありません。応募締め切りは9月30日（木）、詳しくは古今伝授の里フィールドミュージアムまでお問い合わせください。



## 篠脇城跡発掘調査中間報告会

市教育委員会では、郡上東氏の二つ目の居城・篠脇城の発掘調査を、令和2年度から進めています。昨年度の調査で、青磁や天目茶碗のかけら、石積みなどが発見されたことから、山頂に館を構え、雅な生活をしていただことが分かりました。12月5日（日）に開催予定の中間報告会では、最新の調査結果を報告します。講師は、中世城郭研究の第一人者である中井均先生です。

なお、中間報告会は定員を設け、事前申込制とする予定です。詳しくは広報「郡上」でお知らせします。



【郡上東氏800年・古今伝授550年祭事業の問い合わせ先】  
古今伝授の里フィールドミュージアム

88・3244（火曜定休）  
kokin@city.gujou.lg.jp